

## 派遣応募から内定まで

今回の派遣では日本連盟での面接は無く書類選考を経ての内定であった。今回のパターンでは団や地区そして所属県連盟での面接や事前の指導によつての気構えを醸成することが重要であると痛感した。今一度、自覚をもって派遣に臨むという当然のことが実はとても大事であると再認識しました。

### 準備訓練（7月24日～25日） 成田市内

日本連盟主催の海外派遣への応募が年々減少傾向にあるとの声を聞く中で、今回の派遣団の編成は指導者9名（内隊指導者4名）、IST1名、スカウ29名の合計39名の編成で、私の役務は隊指導者ではなく派遣団プログラム担当であった。派遣指導者は人数も豊富で隊運営と派遣団プログラム担当に明確に任務が分掌されお互いが連携を取りながら準備に携われたと感じます。

### 派遣期間中（7月26日～8月2日）

成田空港では折り返し運用で搭乗予定の飛行機が現地天候による大幅遅延の洗礼を受けましたが、飛んでくれただけラッキーであったと思います。

スケジュール変更の相談も経験豊富な指導者が多いと実にスムーズに動きました。翌日のキャンプインに向けて比較的時間を融通しての変更は適切であったと思います。これらの事を以後数回にかけて本当に自然な流れで行えたことは大変勉強になりました。

昨年の派遣団長会議でのレポートの内容からジャンボリー運営に不安がありましたが、よくぞここまでと驚嘆するくらいのジャンボリー会場でした。非常にコンパクトな会場でしたが、生活に支障はなくキャンプ生活特有の不便はありますが楽しい時間を共有できたと思います。花岡団長付のご尽力で快適な生活空間も確保していただき、プログラム担当3名は「QMチーム」とも「3人（匹）のおっさん」と云われながらも仲良く職場（プログラムテント）に通勤しておりました。

報告書内で重複しますので詳細は他の執筆の方に委ねますが、日本ではあまり目を向けないであろうプログラムが大うけでした。そういえばモンゴルに入国してから会場内でもゲーム機を操る光景を見ていないことに気付きました。特にジャンボリー会場内ではバーチャルでなくリアルに誰でもが「マリオ（主人公）」になれるのです。時間のメリハリも行えた上でスムーズな運営が出来ました。多くの常連様のご来店にも助けられて、あつと言う間と感じるほど時間が経過するのが短く感じられました。

この派遣で改めて考えさせられたことがあります。日本のスカウトも自国のアピールをしておりましたが、外国のスカウトはそれ以上に自国のことを誇り高く語っているのです。

国際交流とは相手のことを正しく知ることは大切で大事なことです、それ以上に自国のこと、学校のこと、住んでいる地域のこと、家族のこと、所属する団（隊）のことなどを正しく知ったうえで自分の言葉で話すこと、それに伴ってのコミュニケーション力が実は国際交流の第一歩であると考えさせられました。24WSJに向けて京都連盟でも作業が本格化しますが、誰が就任されるかは現時点では掌握しておりませんが派遣隊長は、その点を

十分にご留意されての事前訓練を行われることを申し送ります。

#### 帰国後・その他

帰国後の社会復帰は翌日からでした。報告書を記述する中で改めて楽しかった派遣が思い起こされます。鈴木団長、花岡団長付の昨年からの入念な準備・永瀬隊長はじめ隊指導者の皆様のスカウトに対する情熱・QMチーム（橋場チーフ、高橋さん、小職）の明るい雰囲気、気が今後のスカウトの成長に繋がると確信します。参加スカウトの中から明日の海外派遣指導者が出ることを期待し、多くの関係各位様に感謝申し上げて報告書の結びと致します。



